

小論文問題用紙

問題 次の文章を読んで、「精読」ということについて、あなたの思うところ、考えるところを述べなさい。字数は七〇〇字以上八〇〇字以下とします。

上田 ぼく、経団連に就職したときに、上司にコテンパンに怒られたことがあったの。「わかんないまま机の前を通すな」って。

(上田惇生『P・F・ドラッカー 完全ブックガイド』ダイヤモンド社)

翻訳や校正は究極の精読であるといわれます。一字一句に至るまで理解しないことには訳すことも誤りを指摘することもできないからでしょう。とはいえゲラゲラを読んでいて「わかんない」ことは頻繁にあります。

「次のフルでサブ3³を達成するために、インターバルとLSDを組み合わせた練習に力を入れる」

ランナーであれば「フル」は「フルマラソン」で、「サブ3」が四十二・一九五キロを三時間以内に完走すること、インターバル(走)とは短距離の全力疾走と休憩をくり返すトレーニングで、LSDはその反対「Long Slow Distance」の名称の通り長距離をゆっくり走るトレーニングだとすぐに理解できます。しかしマラソンになじみがなければこれらの用語は未知の言語にひとしいでしょう。辞書を引き、ひとつひとつの語の意味を理解して初めて、この文章全体が何をいおうとしているのかが「わかる」。専門外の領域について書かれた文章を読んでいる仕事だともいえます。ランナーでなくとも「インターバル走で持久力を養い、LSDで心肺機能と筋力を鍛えること」で、三週間でサブ3の達成を目指す」という文章を読んで正誤を判断しなければならぬのです。マラソンの練習方法としてインターバル走とLSDがあり、前者は主に心肺機能と筋力を鍛えるために、後者は持久力をつけるために行われることを理解すれば、正確には「インターバル走で心肺機能と筋力を鍛え、LSDで持久力を養う」と書くべきではないかと気がつける。さらに「三週間」という数字の裏を取るために調べていくと、フルマラソンに挑むランナーのためのプログラムが、多く三ヵ月から半年の練習期間を想定していることから、「三週間」は「三ヵ月」ではないかと疑問が生まれるかもしれません。

校正者なら誰もが百科項目に通じているわけではありません。知っていることばかりがゲラに書かれているとは限らない。単語ひとつであっても知らなければ辞書を引く。載っていないければ図書館やインターネットを使って調べる。書いているのは専門家だとはいえ、鵜呑みにできないのが校正です。専門家ではありませんからもつともすぐれたマラソンの練習方法は何か、提案されている練習メニューが有効かを判断することはできません。でも、専門家ではないからと理解をあきらめて読み飛ばしてしまつた箇所に、ミスタイプのような単純誤植がひそんでいることは往々にしてあります。愚直に調べさえすれば、ランナーでなくとも「インターバル走」という誤植を拾うことはできるのです。

(牟田都子の文章による)